

羽衣国際大学
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

自己点検・評価報告書

令和6年3月

羽衣国際大学

数理・データサイエンス・AI 教育委員会

1 点検・評価の実施

令和4年度に開講した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の対象授業科目について、学生への授業評価アンケート結果や担当教員からの意見等を踏まえて、授業内容、方法など本教育プログラムの点検・評価を行った。

2 点検・評価の対象授業科目

令和5年度に開講した「情報処理入門」、「統計学」の2科目について点検・評価を実施した。

3 自己点検・評価の結果等

(1) 学内からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	<p>学部学科を問わず履修がされておりこれまでの対象科目の履修者数は計386名(令和5年度は200名)となっており、令和3年度よりスタートした本プログラム修了に必要な全ての単位を取得した学生は名となっている。</p> <p>令和4年度に文部科学省から認定を受け、履修者数が増加したと思われる。また本プログラム修了に必要な全ての単位修得する学生数の増加が今後も見込まれることから、プログラム修了者数の増加が期待される。</p>
学修成果	<p>本プログラムは令和3年度からスタートしたプログラムであり、自己点検・評価につながる本格的なフィードバックは毎年行っている。実施初年度のから2年が経過し、学生アンケート結果や担当教員からの意見を踏まえ改善を行ってきた結果、令和5年度は93名の認定者を輩出し昨年度からほぼ倍増の認定者数となった。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>令和5年度の学生アンケートの項目において、満足度で10点が21%、8点以上の割合は60%を超える結果(10点満点)となっており、学生の理解度については概ね良好な結果が例</p>

	<p>年と同様に得られている。予習・復習の項目で10分以上の学生は50%を超えており、年々予復習の定着が見られる結果となっている。ただし0分の学生は25%いることから、今後の検討課題として挙げられ更なる改善に努めることとしている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本学では、本プログラム対象科目受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、教員の話し方や授業進行、配付資料等の分かり易さ、理解度などについて回答結果に基づき、数理・データサイエンス・AI教育委員会において必要な改善に取り組むことで、後輩等他の学生への推奨度が上がるよう取組んでいる。</p> <p>また、本プログラムに対する良い評価結果については、学期初めの履修ガイダンスやWEBポータルで積極的に周知に努めることとしている。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本プログラムは令和3年度にスタートしたものであり、全学的な履修者数、履修率向上へ向けた計画の成果が得られるのはこれからとなる。</p> <p>令和5年度の履修者数は、現代社会学部157名、人間生活学部43名であった。時間割上履修しやすくする工夫や本プログラムの周知を引続き行うことなどにより、履修者数、履修率の向上が期待できるが、令和5年度は食物栄養学科の履修率が低く、向上することが今後の課題となっている。</p> <p>令和6年度以降も、開講曜日時限を見直し、更なる履修者数の増加を見込んでいる。</p>

(2) 学外からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和 3 年度からのスタートしたものであり、現時点で修了者は 145 名となった。(令和 3 年度後期から令和 5 年度実績)</p> <p>プログラム認定者で卒業生が少なく活躍や評価は判断できないが、令和 5 年度卒業生は進路が決まっている。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学が主催する企業懇談会や合同企業説明会等の機会を活用して、本教育プログラムの授業内容やデータを活用した演習等の手法について意見や要望を収集し、数理・データサイエンス・AI 教育委員会において、本プログラムの改善に活用していく計画である。</p> <p>また、第Ⅲ期中期計画について評価する組織である事業評価委員会には外部委員も参加することになっており、同委員会における意見についても、上記と同様に本プログラムの改善に活用していく計画である。</p>

(3) その他

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業において。積極的に学生に身近なサービスや製品等の具体例を活用して説明を行うことで、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」が理解出来るよう努めている。</p> <p>基盤教育科目として設定され学部学科を問わず履修可能な科目である「プロジェクト演習」においては、課題解決型授業であるためフィールドワークや各種調査で得られた情報を集計、分析能力が必要とされる場面が多く、本プログラムを受講することにより、数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義」を実体験を通じて理解することが出来ている。</p> <p>本プログラムを修了した学生が今後、卒業研究や実験系科目においてデータ計測や分析などを行う際に数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義」を理解することも期待される。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>数理・データサイエンス・AI教育委員会において、学生による授業評価アンケートの結果や対象科目担当の教員の意見を踏まえて授業内容や方法の改善を図ることにしており、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすることについても考慮に入れて検討していくこととなる。</p> <p>また、本学は大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）の採択を受け、DX推進計画のもと、動画を活用した反転授業化を推進しているが、対象科目についても反転授業化を推進することにより、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となることが期待できる。</p> <p>さらに数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムへの会員校へ入会(予定)し、最</p>

	新の情報を得ながら、内容・水準の向上を図る。
--	------------------------